



年 頭 所 感

PC建築部会長

山田 恒太郎

安藤建設株式会社 代表取締役社長

平成二十三年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様には平素よりPC建築部会活動に多大なご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、わが国経済はリーマン・ショック後に各国で打ち出された景気対策の効果が一巡し、昨年前半までは回復局面にありましたが、最近では回復ペースが減速し、先行きに不透明感が広がっています。円高による輸出の低迷や景気刺激策の反動、内需回復力の脆弱さにより当面足踏み状態が続く見込みであり、今後の政府による経済対策の動向次第では、さらなる景気回復の失速も予想されます。

こうした中、建設市場は民間設備投資の冷え込みや、公共工事の削減等により大幅に縮小し、過去に類を見ない大変厳しい状況にあります。一日も早い景気回復を願うとともに、この克服に向けて業界全体で叡智を最大限に結集し、総力で乗り切らなければならない思いを強くしております。

このような状況の下、我々PC建築部会は、PC工法による集合住宅をはじめとする各種建築物の高品質、高規格を目指した技術の研鑽を更に推進するとともに、地球環境保護の観点からも、工業化建築を通して豊かな社会の実現に寄与していくことが重要な使命であり、責務であると考え、活動を展開しています。

昨年末までに、PC部材品質認定規程に基づいた第8回国内N認定及び初めてとなる国内H認定の定期審査を実施し、本年3月末の認定を予定しています。また、国外から申請のあった4工場（上海2工場、大連・厦門各1工場）はすべて認定が完了し、同工場で製造、輸入されるPC部材の品質が確保されることとなりました。更に、新設を予定しているPC部材製造管理技術者の資格認定制度に関しては、3月末までに方向性が出せるよう、現在検討を進めています。

また、日本建築学会に対する支援も部会の重要な活動と捉えており、JASS10改定委員会、鉄筋コンクリート基礎構造部材の耐震設計指針における構造設計法

検討小委員会、RC基準実用化検討ワーキング、壁式鉄筋コンクリート造設計・計算基準作成小委員会等に技術者を派遣しています。

現在増加しております耐震診断調査業務に関しても、一級建築士事務所（社）プレハブ建築協会の受け皿として、HPC造建物、PS造建物、WPC造建物等、当部会が関係する工業化建物の診断に関して、専門委員会で対応しています。

本年2月には、PC工法施工管理技術者資格認定規程に基づき、第4回講習会・試験、及び初めての更新講習会の実施を予定しており、PC工法施工管理の重要性の認識や施工技術の伝承等、明確な目標に基づいて施工管理技術者の育成に努めています。

技術研究の成果としては、昨年末に技術研修会を開催し、名城大学に委託した『超高強度PCに先付けされたタイルの変形追随性』の研究、プレストレストコンクリート建築の魅力、PC工法による耐震改修の提案について研究発表いたしました。参加された会員各社のみなさまに少しでも参考になればと思っております。

また、昨年より中国の住宅建設計画に工業化の機運が高まり、北京をはじめ各方面から工業化技術の研修依頼が増えております。部会の総力でこれに対応し、中国における工業化工法の開発に寄与できればと考えております。

このような活動を通して、会員の皆様と共に業界の地位向上に向けて邁進する所存でございますので、尚一層のご支援を賜りますようお願いいたします。

建設業界を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中で、対処しなければならない課題が多くございますが、この状況を乗り越え確かな展望が実感できる年と成りますことを心より祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。